

令和7年 道路橋示方書 改定ポイント（抜粋）

J I Pテクノサイエンス株式会社

令和7年8月22日に国土交通省より「橋、高架の道路等の技術基準(道路橋示方書)の改定について ～能登半島地震や性能規定化の一層の充実等を踏まえた技術基準の改定～」が発表されました。今回の改定により、安全性の向上、技術開発・新技術導入の促進、ライフサイクルコストの縮減が図られるとともに、適切な維持管理による橋の長寿命化が期待されています。

以下に、主な改定ポイントを抜粋いたしました。

(参考リンク)

[「橋、高架の道路等の技術基準」\(道路橋示方書\)の改定について ～能登半島地震や性能規定化の一層の充実等を踏まえた技術基準の改定～ - 国土交通省 \(外部リンク\)](#)

<主な改定ポイント>

1. 新しい形式の提案に対しても適切に性能を評価するための枠組みを充実

- 構造の合理化と必要な性能の両立のため、新たな照査の枠組みを導入

平成29年 (2017年)

【上部構造】

主桁
床版
横構・対傾構



【下部構造】

橋脚：躯体・基礎
橋台：躯体・基礎



令和7年 (2025年)

【上部構造の機能】

主桁・主構機能
床版・床組機能
立体的構造保持機能

(構成要素)

主桁
床版
横構
対傾構

【下部構造の機能】

荷重保持機能
位置保持機能

(構成要素)

橋脚：躯体、基礎部材
基礎地盤
橋台：躯体、基礎部材
基礎地盤、背面部

- 立体的な挙動を評価するための新たな荷重条件の導入
 - ウェブ間の温度差による変形の影響を考慮
 - ウェブに鋼材を用いたコンクリート箱桁に考慮する部材間の温度差
- 鋼桁の限界状態の規定の充実
 - 一定の条件の桁において塑性化後の状態を評価
- 直線の PC 桁における設計の合理化
 - 引張応力を鉄筋が負担する PC 桁の設計が可能となる規定を新たに追加

- 減衰付加装置の適用条件を明確化
 - 地震時の橋の振動を低減させ、橋の機能を確保するために設置する減衰付加効果が発揮されなくても落橋等の致命的な状態とならない
- 新しい使用材料の追加
 - 橋梁用高降伏点鋼板 SBHS700、SBHS700W

2. 様々な耐久技術の開発を見据え、耐久性能の評価方法を明確化

- 耐久性能を適切に評価するため、橋の設計耐久期間の概念を新たに導入
- 設計耐久期間の信頼性を評価するため「設計耐久期間末の限界の状態」を新たに定義
- 耐久性能の信頼性を高める工夫の適用の考え方を明確化

3. 能登半島地震を踏まえた対応（復旧性を向上させるための規定を充実）

- 支承部に障害が生じることを設計時点で想定し、復旧性を向上させるための規定を充実
- 橋台躯体背面部は橋の一部、橋梁接続区間は橋に連続する区間として、橋の性能を満足するための評価を規定

4. その他の改定事項

- 編の構成を橋の構成要素である上部構造、下部構造、上下部接続部に再編
- 耐震、耐風を共通編に取り込み、設計の上位段階から考慮する必要性を明確化

